

# 第Ⅱ期中期目標・中期計画

2025年4月～2030年3月



学校法人ノートルダム女学院

## 第Ⅱ期中期計画策定に当たって

学校法人ノートルダム女学院（以下女学院）は、ノートルダム教育修道女会が設立母体となり、1952年に鹿ヶ谷の地に中学校を創立、その後高等学校、小学校、大学を創立し現在に至っています。

女学院は創設以来、カトリック精神に基づく「徳と知」を建学の精神に掲げ、宗教心を持って豊かな人間性あふれる人材を育むための教育を実践してきました。混沌とした厳しい時代、改めて各設置校が原点に立ち返りこの使命を果たすことが極めて重要であると考えています。

女学院では2020年から5年間第Ⅰ期中期計画を策定いたしました。この期間の大半は、新型コロナウイルスの感染拡大により、今まで経験したことのない事態に遭遇し、価値観や行動、更には経済や文化など社会全体に大きな影響を与えました。一方「学びの保障」を大前提にすべての学生・生徒・児童の学びを止めないよう取り組んだ貴重な数々の経験は、今後の生活・人生に十分生かされるものと確信いたします。

2025年以降も社会の状況は、少子高齢化の進行、天災地変等予断は許されませんが、この変化する時代、社会のニーズに対応し、女学院は組織の力を結集し、さらに魅力あふれる女学院を目指していきます。

女学院では、明るく・元気で・生き生きとした学校生活、安定した経営を実現させるため、2025年から5年間の第Ⅱ期中期計画を策定いたしました。女学院を取り巻く環境は、少子化に加え、グローバル化の進展、人工知能（AI）等の技術革新等短期間に大きく様変わりする可能性があります。そのため具体的な大きな構造変化等については、中期計画を実現していくための具体的な行動計画である毎年の事業計画で適事適切に補足公表いたします。

2025年には、私学法改正に伴う寄附行為の改定もあり、コンプライアンスに基づくガバナンスの強化や危機管理体制の強化、又教育・研究を支える各設置校の体制強化により、更に充実した学校運営を実施していきます。

女学院では、歴史と伝統を重んじつつ、新たな取り組みにより革新的に新たな発展を目指します。皆様のより一層のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

学校法人ノートルダム女学院  
理事長 和田 環

## 建学の精神

創設者マザーテレジア・ゲルハルディングが、イエス・キリストの福音に基づいてめざした教育の精神に沿って、神に創造され、愛されている児童・生徒・学生一人ひとりのもつ可能性が完全に開花され、平和な地球社会の発展に貢献できる人間の育成をはかる。

## 教育理念

『徳と知』をモットーとする全人教育  
カトリック精神に基づき「人が変われば、世界も変わる。」という信念をもって、知性と品格をそなえた児童・生徒・学生の育成を目指す。  
誰もが神に愛され、お互いに愛し合うかけがえのない尊い存在であることをわきまえ、知性を磨き、自分で考え、判断し、選びとる力をそなえた自立した人間となる。そして多様な人間同士の、また、人と自然界との共生の大切さを知り、そのために行動できる人となる。

## ミッション・コミットメント

『尊ぶ』 人と自分、物と自然の全てに敬意をもって向き合います。  
『対話する』 心をこめて聴き、かかわりから学び、真理を探究します。  
『共感する』 心を開き、人や時代の要請に敏感な感性を持ちます。  
『行動する』 対話し、決断し、責任をもって人々の幸せと世界平和のために行動します。

## 学校法人ノートルダム女学院 中期目標・中期計画 (期間 2025年4月～2030年3月)

本学院は全ての児童・生徒・学生が自立して社会で生き、個人として豊かな人生を送ることができるよう、その基礎となる力を培う場でなければならない。現在学校現場において急速にすすむ少子化問題の中、グローバル化や情報化などの急激な変化に伴い、思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、様々な言語活動や協働的な学習活動等を通じて効果的に育む必要がある。  
変化の激しい時代、社会のニーズ等に対応し、明るく・元気で・生き活きとした学校生活、安定した経営を実現させるため、本学院では2025年から5年間を見据えた第Ⅱ期中期目標・中期計画を策定し、更なる教育活動の充実、発展を目指していく。

### 自律性のある教育

- ①知性と品性をそなえた合理的配慮の促進、日常化
- ②多拠点サポートによる学習支援のさらなる充実化
- ③個別最適化、協働的な学びの充実化
- ④PBL型授業の深耕
- ⑤自己管理能力・自己決定能力の育成

### 学生・生徒・児童の受入

- ①NDブランドの確立と浸透を目指す広報戦略の強化
- ②知名度・認知度の向上拡大を目指す広報戦略
- ③広報と教学面が両輪となった学校運営

### グローバル

- ①カトリック精神に基づくグローバル・ミッションへの取り組み
- ②国際化とその推進体制の整備
- ③ノートルダム・ネットワークを活かした教育機会の提供
- ④ICTとの連携

### 社会連携・社会貢献

- ①地域や地元企業との連携、教育・研究の成果の還元
- ②教育・ボランティア活動を通じ社会全体の問題解決・福祉の向上に寄与

### 働き方改革

- ①労働時間の状況把握・産業医・産業保健機能の強化・衛生委員会の設置・健康診断の実施・メンタルヘルス対策
- ②業務の明確化・適正化・生産性の向上
- ③各種会議の再編成

### 学生・生徒・児童の支援

- ①教育環境の整備
- ②特色のある教育の実践
- ③「考える力」を重視
- ④「進路指導」「キャリア教育」

## 経営基盤

### 「自主性」「公共性」「安定性」の追求

- 財政の安定化
- 教職員研修

### 「健全性」「透明性」「確実性」の確立

- 施設・設備の維持保全
- コンプライアンスの徹底

- ガバナンスの強化
- 危機管理体制の強化



# 京都ノートルダム女子大学 中期目標・中期計画 (期間 2025年4月～2030年3月)

急速にすすむ少子化と混迷を極める社会を前にして、その解決の担い手となる人材を送り出す大学の役割はますます高まる。貴重な若者であるからこそ、多様な学生を誰一人取り残すことなく、社会で一定の役割を果たせるように育てることが求められる。男女格差が根深く残る日本の社会で、確実な人材育成を目指すとするなら、そこに柔軟性、個性ある対応が可能な小規模女子大学の役割が存在するといえる。

京都ノートルダム女子大学は、「徳と知」の建学の精神と、行動指針としての「ミッション・コミットメント」に基づき、混沌とした社会を生き抜く知恵や見識と、社会に共生、協働の和を広げる人間性を養成する、少人数の女子教育に徹底して取り組む。同時に創設以来育んできた京都、北山の地域との関係性を重視し、研究成果の還元や学生の地域を拠点とする教育活動の充実、発展を目指す。そのために、創立70周年に向けた大学運営・管理体制の整備と戦略的な学生受け入れを促進する入試・広報を実践していく。

## 対話と実践による女性支援教育

- ①批判的、総合的思考力と人間性を養う経験学習の充実化
- ②教育の基軸とする「国際性」の新たな展開と深化
- ③初年次教育から卒業研究まで一貫した個別対応重視の教育体制の構築
- ④学修意欲を誘発し主体的な学びを保証する制度やカリキュラムの整備

## 人と文化に関わるエッセンシャル研究

- ①地域の諸課題に取り組む研究や地域特性を活かした研究を奨励、強化
- ②研究成果の地域への積極的な発信、還元
- ③開かれた研究拠点として、外部機関との連携や学会・研究会の誘致を強化

## 個別性、重層性ある学生支援

- ①合理的配慮の促進、日常化
- ②多拠点サポートによる学習支援のさらなる充実化
- ③正課授業外の社会的、文化的活動の奨励、支援

## 個性と意欲を尊重する 学生受け入れ

- ①大学ブランドの確立と浸透を目指す大学広報
- ②出願者の開拓、拡大を目指す入試・広報戦略
- ③高大接続教育への取り組み・発信の強化による学生募集の活性化
- ④シンプルで明快な入試への整理、再構

## グローバルな社会連携・貢献

- ①カトリック精神に基づくグローバル・ミッションへの取り組み
- ②京都府、京都市、左京区、および京都の企業との連携活動の拡大、充実化
- ③「知の拠点」としてのリカレント教育と地域の聴講需要にそった公開講座の推進

## 持続性ある女性支援拠点をめじた大学管理・運営

- ①第4期認証評価受審に向けての内部質保証体制の検証と再整備
- ②本学理念に基づき、社会の要請に応える戦略的な教育研究組織の追求・改革
- ③学生募集の活性化による財務の立て直し
- ④国や自治体からの補助金や企業との連携による外部資金の獲得強化
- ⑤財政状況を踏まえた中長期的な施設の維持管理計画
- ⑥IT環境の最適化を図るシステム、機器の整備、管理

# ノートルダム女学院中学高等学校 中期目標・中期計画 (期間2025年4月～2030年3月)

本校では、「主体性」「コミュニケーション力」「他者との協働」「批判的思考」「創造性」「グローバル」「課題解決」という言葉をキーワードに、学校全体での取り組みを行ってきた。習得した知識や考え方をいかに活用し、自らが生きる社会の中に存在する課題を見出し、問いを打ち立て、他者との協働および対話を手段として、その解決策を模索し、この地球に貢献することのできる女性へと成長していくことを促す、そのことに全校で取り組んできた。

学校が社会で求められる在り方が変化の中で、時代の要請に従い、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指す。カトリック学校である本校は、文科省の学習指導要領に則ることと同時に、揺れ動く思春期の魂の遍歴に深くコミットし、彼女たちの内面を深く見据える旅路に同伴する教育機関として、更なる発展を目指す。

## ノートルダム21世紀型教育

- ①国際修道会を設立母体としたノートルダム独自のグローバル性とそれに基づくカトリック教育
- ②関係性・対話を重視する教育
- ③共感を重視する教育
- ④Diversity & Inclusionを尊重する心の伸長

## 個別最適化教育

- ①生徒一人一人の、可能性の開花
- ②スクールサポート室の充実
- ③ICT機器の最大限の活用

## グローバル教育の更なる充実

- ①主体的に行動できるグローバルマインドの育成
- ②高い英語運用能力
- ③ノートルダム・ネットワークを活かした教育機会の提供
- ④ICT教育の進化・深化

## サイエンス教育

- ①本物に触れ、実感し、科学的な興味・関心を深める
- ②批判的・論理的な思考力の育成
- ③大学進学後を見据えた確かな学力の育成

## 中学高等学校管理・運営

- ①進学先としての認知度向上・広報体制の見直し
- ②全ての業務に関しての、ICT化や専門人材の採用による、業務の軽減
- ③安心・安全な学校づくりを最優先に、財政状況を踏まえた中長期的な施設の維持管理計画
- ④国や自治体からの補助金やクラウドファンディングなどによる外部資金の獲得強化



# ノートルダム学院小学校 中期目標・中期計画 (期間 2025年4月～2030年3月)

今後の社会は、予測不能で困難な時代になるといわれている。その中で一人ひとりが高い目標や意欲を持ち、自立した人間として自分の良さや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら、持続可能な社会を築く資質・能力を身に付けることが必要とされる。特に、子どもたちが将来活躍するためには、確かな知識と技能の習得に加え、変化の激しい時代の要請に柔軟な対応をし、新たな価値を創造する力が求められる。

建学の精神を礎とし、時代の変化を見据え、児童の実態に合わせた継続的な教育の改善と教育の質を高め、学力を保証するための教育改革を推進する。

## 教育・研究

## 広報戦略

### 「徳と知」の精神を基に、他者理解と多様性に寛大な心の育成

- ①個別最適化、協働的な学びの充実化
- ②探究学習PBLの実施と更なる充実、SELの導入と実施
- ③OECDラーニングコンパスの一部としての21世紀型スキルの育成の継続
- ④海外研修（オーストラリア、ネパールなど）の充実と国際教育の推進
- ⑤教員の指導力向上

- ①教育理念・教育方針の「表現」を再構築し、独自の強みを検討
- ②デジタル広報の利活用
- ③志望校順位を上げるためのマーケティング施策の検討と実施

### 中学校進学実績の高い小学校

## 小学校管理・運営

- ①人事：教員の勤務時間に関する意識改革、人材育成の確立
- ②財務：国や自治体からの補助金を活用しながら健全な予算執行に努める
- ③業務運営：事務的業務についてはDXを取り入れ効率化する
- ④施設設備の整備：体育館建て替え、講堂棟の改修、山の家の維持管理、運用管理の外部委託などの検討と実施

